

外国人支援 交流センター

実現へ八つの提言

盛岡商議所 検討会議



国際リニアコライダ

国際リニアコライダー（ILC）の誘致に
取り組む盛岡商議所
のILC実現検討会
議（議長・谷村邦久
頭）は24日、ILC実
現を見据えたまちづく
りや外国人対応などに
関する八つの提言をま
とめた。外国人研究者
らの支援システムやI
LC交流センターの整
備など具体的な取り組
みも盛り込んだ。自治
体や大学、県民と提言
内容を共有し、実現に
向けて順次取り組む。

盛岡商工会議所ILC実現検討会議が取りまとめた提言と主な取り組み内容

提言	主な取り組み内容
未来に向けたグローバル都市～暮らしやすいまちづくりと知の拠点～をめざして	・ILCの研究拠点と盛岡を結ぶ交通アクセス機能の整備 ・ILC交流センター、ILC国際連携センターの整備（知の交流拠点施設）
再生可能エネルギーを利用した環境にやさしいまちづくり	・岩手医大跡地や中心市街地の商店街などへの木質バイオマスによる熱供給システム、太陽光発電などの導入
自然と科学が織りなす国際的な歴史・文化都市「MORIOKA」へ	・既存の案内板の見直しと盛岡広域エリア全体を網羅した周辺案内板の設置 ・ボランティアガイドの養成とガイド組織の強化
外国人研究者が研究に専念できる生活環境と家族がなじめる地域づくり	・外国人研究者とその家族が行政手続きや自動車購入、病院受診などで外国語で対応可能なスタッフによる情報提供と代行支援、窓口設置などのシステム整備
国家戦略特区構想を念頭においた生活基盤の確立と地元企業の参入に向けて	・日本未認可の医薬品の使用など国家戦略特区の必要性を含めた研究・検討 ・ILC研究施設で必要と想定される外部委託業務をリストアップ
意欲ある地元企業が参入するための仕組みづくりと加速器関連産業の集積に向けて	・地元企業が加速器業界と新たな取引を求めて自発的に自社の技術情報を発信し、関連技術の開発や人材育成などに取り組める場を設ける
ILCのブランド化と世界に向けた岩手ブランドの魅力発信	・ILCの意義を耳で聞くだけでなく、子どもたちには既存施設などを活用した「体験型」のイベントの開催
行政・大学・研究機関、産業界からなるオールいわたの推進	・岩手大学工学部の拡充、県立大、県産業技術短期大学校などによるソフト産業の充実・強化

提言は▽再生可能エ
ネルギーを利用した環
境にやさしいまちづく
り▽外国人研究者が研
究に専念できる生活環
境と家族がなじめる地
域づくり▽意欲ある地
元企業が参入するため
の仕組みづくりと加速
器関連産業の集積に向
けてなど八つ。
ILCの実現で多く
の外国人研究者らが本
県を訪れるため、グロ
ーバル都市形成を見据
え▽木質バイオマスに
よる熱供給システムや
太陽光発電などを導入
▽ILC研究施設で必
要な外部委託業務の情

報提供と参入可能な地
元企業のリストアップ
▽インターナショナル
スクールの新設の検討
「など具体的な取り組
み内容も盛り込んだ。
同会議はさらに調査
や研究を重ねてアクセ
ッションプランにまとも
る。県内自治体や支援
機関・団体、県民と提
言内容について共有
し、オール岩手での取
り組みを推進してい
く。

提言は、10月下旬か
ら11月上旬に文部科学
省やリニアコライダー
国際研究所建設推進議
員連盟などへの要望活
動にも活用する。

同会議は2013年
12月に設置。8委員
会で約139人の会員
企業が約半年間、議論
を重ねた。谷村会頭は
手を代表する企業の代
表者が時間と努力、知
恵を絞ってまとめたの
は初めてで、意義深い。
今後も県民のILCへ
の思いを形にしてい
くために取り組んでい
きたい」と語る。

グローバル都市を提言

ILC実現 盛岡商議所が意見集約 検討会議

ILC（国際リニアコライダー）実現検討会議（議長・谷村邦久盛岡商工会議所会頭）は24日、「未来に向けたグローバル都市の実現を目指す」をメインテーマとした提言内容を発表した。県都盛岡としてILC実現に向けてできる役割を示したものの、同会議所8委員会が、それぞれ個別のテーマで提言し、5項目でくくった。



提言内容について語るILC実現検討会議の谷村邦久議長

「まちづくりに向けて やさしいまちづくり」
「未来に向けて（環境問題特別委員会）
たグローバル都市を暮らすための体制整備と知の拠点をめざし
て」
「まちづくり委員会」
「再生可能エネルギーを利用した環境に
よる地域循環型システ
ムなどを盛り込んだ。
「外国人対応に向け
て」では、自然と科学
が織りなす国際的な歴
史・文化都市『MOR
I O K A』（観光国
際委員会）、「外国人研
究者が研究に専念でき

る生活環境と家族がな
じめる地域づくり（税
制問題特別委員会）を
掲げ、案内板やサイン
の適切な整備、金融面
や医療に関わる支援な
どを盛り込んだ。
「企業参入に向けて」
では、「国家戦略特区構
想を念頭に置いた生活
基盤の確立と地元企業
の参入に向けて」（中
小企業振興委員会）、「
一貫した地産地消が
参入するための仕組み
づくりと加速器関連産
業の集積に向けて」（産
業育成特別委員会）を
掲げ、生活支援ニーズ
への対応、企業内での
外国語対応と若手人材
の育成、大手企業など
との地元企業とのマッ
チングの創出などを盛
り込んだ。
「広報戦略に向けて」
では、「ILCのブラン
ド化と世界に向けた岩
手ブランドの魅力発
信」（盛岡ブランド創
出特別委員会）、「関係
機関との連携に向け
て」では、「行政・大学
・研究機関、産業界か
らなるオールいわての
推進」（総務政策委員
会）と、それぞれ提言
した。
谷村議長は、「ILC
実現に向け、今後目指
すべき地方都市の姿の
一つとして8委員会の
提言をまとめた。今後
は、行政、大学、関係
団体との連携を強め、
グローバル都市形成に
向け、さらに調査・研
究を進める」と指摘。
「同提言を冊子にま
とめる。11月中旬まで
には、文部科学省、議
員連盟などに要望した
い。国が正式に誘致決
定するよう、後押しし
たい。実現可能性は十
分にある」と話した。

地元企業参入仕組みを

盛岡商議所提言まとめる

超大型加速器「国際リニアコライダー（ILC）」の北上山地への誘致を見据え、盛岡市の役割を検討してきた盛岡商議所は24日、提言書をまとめた。10月下旬にも文部科学省やILC誘致を推進する超党派の国会議員連盟などに提出する。



提言は外国人への対応、企業参入、まちづくりなど5分野の8項目。「外国人研究者が研究に専念できる生活環境と家

くりと加速器関連産業の集積」などを盛り込んだ。検討会議議長で、盛岡商工会議所の谷村邦久会頭は「誘致に向け課題は山積している。受け入れ態勢を整えていく中で、盛り上がりをも日本全体にも広めたい」と話した。検討会議は2013年12月に設置。民間の発想とスピード感でILCに関わる課題や盛岡の役割を探ろうと、会議所内の8委員会が担当するテーマを議論した。

盛岡を「知の拠点」に

盛岡商工会議所は24日、宇宙誕生の謎に迫る巨大実験装置「国際リニアコライダー」(ILC)計画の実現に向けた提言をまとめた。盛岡市を「知の拠点」とし外国人研究者が住みやすい国際都市として再生させ、地元企業が波及効果で潤うような仕組みづくりをめざす内容だ。

昨年8月に、国内の研究者グループが岩手、宮城両県にまたがる北上山地が最適地と判断。これを受け商工会議所は12月、所内に会員企業や県、県内3大学などが参加するILC実現検討会議を設け、県庁所在都市として何ができるか研究に取り組んできた。

商工会議所、ILC実現へ提言

提言は、まちづくりや産業育成、国際化などの観点から八つにまとめた。住環境が整い外国人が暮らしやすく、再生可能エネルギーを利用したまちづくり▽ILC建設や関連事業に地元企業が参入できる機会の拡大▽産官学が連携したILC実現の機運醸成——などを提言している。

提言は早急に冊子にまとめ、地元選出国会議員や文部科学省に提出し、国として正式に誘致することを促す。会見した谷村邦久会頭は「ILCが実現すれば、岩手が世界最先端の研究拠点となり明るい未来を切り開くことができる」と語った。